

## 閉会挨拶

皆さま、海事センター理事長の平垣内でございます。本日は長い間お疲れさまでございました。時間もたっておりますので、非常に早く私の方から申し上げたいと思います。

本日は大きく二つのセッションがございました。最初のセッションの方でパネルディスカッションのモデレーターを務めていただきました杉山先生、そしてパネリストとして意見を活発に言っていただきました河野先生、日本船主協会の池田会長、高橋海事局長には大変お礼を申し上げる次第でございます。

本日、最初のセッションの方で、コロナの中の外航海運といったような問題が提起されております。よくラストマイルのことで物流危機ということでちょっと前に騒がれましたけれども、よくよく考えると、ラストマイルで荷物が届く前に、そもそもわが国は海に囲まれておりますので、ラストマイルで来る前に荷が来ないとどうしようもないということが本当のところ、最近いろいろなコンテナの問題の中でだいぶ認識されるようになったのではないかと思います。池田会長の方からは、これがなかなか問題にならずに縁の下の力持ちでうまくいっていることが良いことであるとおっしゃっていただいたわけですが、今日もご指摘にあったような税制の話などを含めて、今後もやはり海運の方も縁の下の力持ちというだけではなく、われわれの方もしっかりと皆さまに理解していただくという活動を続けていかなければいけないと思った次第で

ございます。

後半の方はベトナムのお話でございました。私個人的には非常にベトナムのフォーが好きだというだけではないのですけれども、非常に好きな国でありまして、非常に興味深く聞かせていただきました。海運の世界といいますとフィリピンの話がいつも出てくるわけでございますけれども、やはりベトナムは人口が1億人弱ございますし、ASEANの中でもASEAN海路ということでASEAN諸国とつながっておりますので、今後も非常に重要性が増すのではないかと考えております。

あとは羽原先生の方から最後に経済安全保障的なお話も頂きました。今日の話の中ではあまり出ていなかったのですけれども、やはり台湾を巡る危機などがございまして、今後はやはり海運の方もマラッカ海峡の辺りが通れなくなるなどといったいろいろな問題が生ずると思います。今の政権も経済安全保障をメインの政策として挙げておりますので、今後そういった議論も出てくるのではないかと考えております。

いずれにいたしましても、わが公益財団法人日本海事センターとしましては、外航海運あるいは海事全体のいろいろな理解を深めていく活動を今後も進めてまいりたいと思いますので、本日ご参加の皆さまにおかれましては、ぜひご協力いただければと思います。本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。